

令和 3 年 3 月 15 日
消費・安全局食品安全政策課

カキのノロウイルスに係る平常時の水準調査委員会(第 5 回)【概要】

令和 2 年度カキのノロウイルスに係る平常時の水準調査結果の中間報告及び ISO 15216-1 に基づくノロウイルス検査法の導入に向けた当省の取組事項の紹介を目的として、主要生産道府県及び関連省庁等が集まり調査委員会(第 5 回)を開催した。

1. 開催場所：農林水産省消費・安全局第 2・3 会議室、WEB 会議併用

2. 日時：令和 3 年 3 月 15 日 13:30～16:00

3. 出席者

主要生産道府県(13)、研究機関(公益社団法人日本食品衛生協会、国立医薬品食品衛生研究所、国立保健医療科学院、国立研究開発法人水産研究・教育機構)、一般社団法人大日本水産会、全国漁業協同組合連合会、分析機関、関係省庁(水産庁、農林水産省(畜水産安全管理課、食品安全政策課))

4. 議事概要

(1)「令和 2 年度 カキのノロウイルス(NoV)に係る平常時の水準調査(中間報告)」(資料 3)により、令和 2 年度調査結果の中間報告を行った。

- ✓ 今年度は、令和元年度に比べて 12 月以降の NoV 定量値が顕著に低い値を示した。また、細菌についても今年度は顕著に低い値であった。
- ✓ 12 月以降 NoV が増加する傾向は令和元年度と同様に見られ、ほとんどの産地で NoV は検出された。
- ✓ 浄化による NoV 低減効果はほとんどの産地で認められなかった。

(2) 「ISO 15216-1 に基づくノロウイルス検査法の導入に向けた取組について」(資料 4) により、当該検査法の導入に向けた当省の取組事項を紹介した。

- ✓ ISO 15216-1 に基づくノロウイルス検査法（以下、「ISO 法」という。）の国内導入に向け、①ISO 法の国内実施と高感度遺伝子検査法の性能比較、②ISO 法にて推奨される核酸抽出機器の代替可能性の検証について検証結果を報告した。

(3) 令和 2 年度レギュラトリーサイエンス研究推進委託事業の短期課題解決型研究において実施している、カキ中のノロウイルス低減対策に関する研究について「カキ中のノロウイルス低減対策に関する研究 令和 2 年度研究報告」(資料 5) により令和 2 年度の試験結果を報告した。

(4) 「(情報提供) 令和 3 年度食品の安全性に関する有害化学物質及び有害微生物のサーベイランス・モニタリング年次計画案（有害化学物質）(抜粋)」(資料 6) により、貝毒にかかるリスク管理について、来年度のサーベイランス年次計画案の情報を共有した。

(5) その他

- ✓ 関連情報として、新型コロナウイルスがカキに蓄積されるか、またフランスの海水や二枚貝から新型コロナウイルス RNA が検出されるか調査した Marion Desdouits らによる論文（Can shellfish be used to monitor SARS-CoV-2 in the coastal environment?）について情報を提供いただいた。

(6) ご意見

- ✓ 水準調査結果について、浄化処理後に NoV 濃度が低減した産地だけでなく、NoV 濃度が上昇した産地についても注視する必要がある。
- ✓ 水準調査結果について、令和元年度よりも令和 2 年度のカキ中の細菌数や E.coli 最確数が低下している理由として、下水からの海水の汚染が少なかったなどは考えられないか。